

2040年問題を見据えた貴重なご質問だと思います。在宅での看取りが増加する中、低栄養予防や経口摂取維持のための栄養指導は、多職種連携の要になると考えています。本会の現状と今後の展望について改めてお伝えします。

1. 現状の取り組み

現在、当会では6名のコーディネーターを中心に、在宅栄養ケアの基盤作りを検討しています。（東部2名・中部2名・西部2名）認定栄養ケア・ステーションの活用：相談窓口の一本化を図り、医療・介護現場からの依頼に対して迅速に管理栄養士を派遣・調整できる体制を整えています。多職種連携セミナーの実施：ケアマネジャーや訪問看護師等との顔の見える関係づくりを強化し、「食」の課題を早期に発見・共有できる土壌を構築しています。

2. 2040年に向けた今後の課題と対応策

ご指摘いただいた「需要増への対応」については、以下の2点を重点課題として検討中です。

指導員の確保と育成：今後について、在宅訪問が可能な管理栄養士の増員。潜在管理栄養士へのリカレント教育や、医療機関所属の管理栄養士が地域に出られる仕組みづくりを検討し、2040年のピークに合わせた人材の厚みを確保 医療機関（開業医）への周知徹底：在宅訪問管理栄養士の活用は、まだ医師の間で十分に浸透しているとは言えません。今後は医師会等ともさらに連携を深め、処方箋に基づく栄養指導が円滑に行われるよう、連携の枠組み周知を徹底する。

2040年に向け、鳥取県の高齢者が住み慣れた地域で最期まで口から食べる喜びを維持できるよう、「地域に根差した栄養ケアのインフラ」として体制の強化を目指したいと思います。

鳥取県栄養士会
福田節子